



# HÔTEL PLAZA ATHÉNÉE

ホテル・プラザ・アテネ [www.jhrca.com/worldhotel?cat42](http://www.jhrca.com/worldhotel?cat42)

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。

これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。



筆者 小原 康裕

国際ホテルジャーナリスト

慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年 Munich Re 入社。

2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役 CEO。

JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント協会理事。

[www.jhrca.com/worldhotel](http://www.jhrca.com/worldhotel)

現在、筆者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。

多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。



ヴァンドーム広場に佇む Ritz Paris



2011年10月18日、突然リッツ パリ休業のニュースが世界に発信されホテル関係者を驚かせた。翌12年夏より2年3カ月という異例の完全休業で、“前例のない改装”が理由だった。同年5月に発表された5ツ星を超える“新たな格付け”「PALACE」の認定からリッツが漏れたことに起因する措置であった。(本誌2012年3月9日号、及び23日号のVol.19、Vol.20参照)。これまでパリには“暗黙の了解”という形で7軒の「PALACE」が存在していた。リッツ、ムーリス、クリヨン、ジョルジュサンク、プラザ・アテネ、プリストル、そしてフーケッツ・バリエールの7名門ホテルである。そのなかでも筆頭格を自認するリッツが、フランス観光開発機構及び観光庁の審査認定から外されたことは、オーナーであるモハメド・アルファイド氏にとって耐えがたい屈辱であったと推測される。

去年2016年6月、新生リッツ パリはヴァンドーム広場にその栄光の扉を再び開いた。大改修を開始してから実に4年の歳月が経過していた。新生リッツ パリは建物外壁も綺麗に修復され、隣接するフランス司法省の黒ずんだ外壁との対比が象徴的である。筆者にアサインされた部屋はリッツを代表する「Coco Chanel Suite」で、シャネルの写真や化粧機、シワズリーの屏風などフェミニンな空気が流れるスイートだ。ベージュを基本と室内は気品に満ち、窓からはヴァンドーム広場の壮麗な佇まいを望む。ここはシャネルの美意識が息づく特別な“家”とも言える。

新生リッツ パリで大きく変わったのは、「Ritz Club Paris」内に新設された「CHANEL au Ritz Paris」だ。シャネルとリッツの深い信頼関係により、ホテル内に誕生した世界初の美の殿堂である。エレガントなトリートメントが話題になり早くもセレブリティの注目を集めている。中庭テラスも大きく変更され、ニコラ・サル氏が率いるメインダイニング「L'Espadon」と人気のバー「Bar Vendôme」にそれぞれ開閉が出来るドーム型天井のテラス席を設けた。さらに、リッツの顔でもある麗しき中央回廊に「Salon Proust」が新設された。大作“失われた時を求めて”のマルセル・プルーストに捧げたサロン・ド・テである。

今回の改装で特筆すべきは、創業時からの歴史的遺産に敬意を払い繊細な作業が遂行された。家具や調度品は一切売りに出さず、情熱あふれる最高の職人たちにより修復がなされたことである。“世界の王族が邸宅に求める洗練と快適さを提供するホテル”。セザール・リッツが開業時に掲げたビジョンだが、1898年に創業して以来、王侯貴族や世界の著名人に愛されてきたリッツ パリ。これらのレガシーを大切に継承し、次世代に夢を届けるホテルとして華麗なる復活を成し遂げた。



- ① 他のホテルでは見られない伝統の黒い鉄扉と新調された真紅のカーペットが映える正面エントランス。中央のエンブレムも磨き上げられた
  - ② リッツの顔でもある中央回廊。気品あるロイヤルブルーのカーペットが壮麗な空間を表現している
  - ③ 華麗なる街路灯が灯る夜間の正面エントランス
  - ④ 重厚なレセプションデスク
  - ⑤ ゲストリレーション担当の P. Paoletti 氏の出迎えを受ける。
- ② 背後に“CEZAR RITZ 1850-1918”と記された記念プレートが掲げられている



①



②

- ① Ritz Paris を代表する「Coco Chanel Suite」のベッドルーム。  
ページュを基本とした室内は気品に満ち溢れている。  
ここはシャネルの美意識が息づく特別な「家」とも言える
- ②化粧機やシノワズリーの屏風などフェミニンな空気が流れるスイートルーム
- ③ GM からの挨拶レターとウェルカムアメニティー
- ④窓からはヴァンドーム広場の壮麗な佇まいと中央にオペリスクを望む
- ⑤「Coco Chanel Suite」室内には、時代物の置時計やシャネルの思い出の写真、  
書籍が置かれている
- ⑥新設された「CHANEL au Ritz Paris」のレセプションデスク
- ⑦「Ritz Club Paris」のトレーニングスタッフたち
- ⑧「Ritz Club Paris」のショーケース。airweave の文字も見える
- ⑨ゴージャスの極みを提供するスイミングプール



⑥



⑦



③



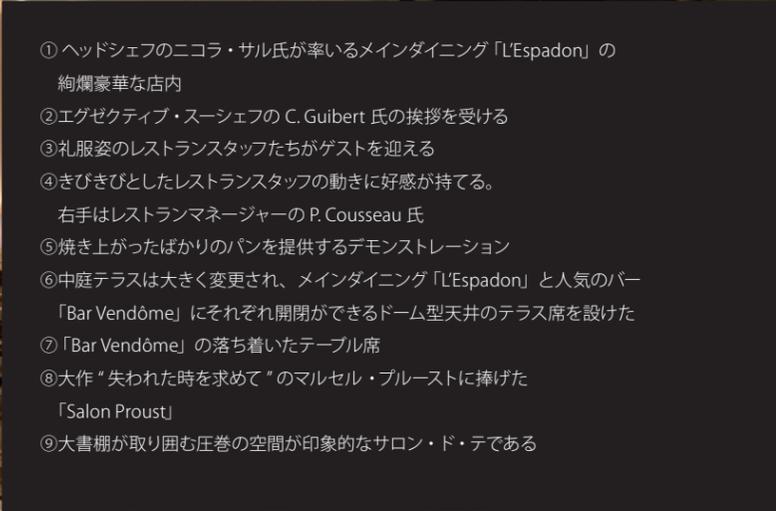
④



⑧



⑨



- ①ヘッドシェフのニコラ・サル氏が率いるメインダイニング「L'Espadon」の  
絢爛豪華な店内
- ②エグゼクティブ・スーシェフの C. Guilbert 氏の挨拶を受ける
- ③制服姿のレストランスタッフたちがゲストを迎える
- ④きびきびとしたレストランスタッフの動きに好感が持てる。  
右手はレストランマネージャーの P. Cousseau 氏
- ⑤焼き上がったばかりのパンを提供するデモンストレーション
- ⑥中庭テラスは大きく変更され、メインダイニング「L'Espadon」と人気のバー  
「Bar Vendôme」にそれぞれ開閉ができるドーム型天井のテラス席を設けた
- ⑦「Bar Vendôme」の落ち着いたテーブル席
- ⑧大作「失われた時を求めて」のマルセル・ブルーストに捧げた  
「Salon Proust」
- ⑨大書棚を取り囲む荘巻の空間が印象的なサロン・ド・テである